

2026 年度

学 習 の 手 引 き

(3 年生・4 年生用)



専門学校

ベルランド看護福祉大学校

高度専門看護学科

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】			
地域包括ケア2	3年次 前期	小窪 幸子	中第3地域包括支援センター	助産師			
	【単位 時間数】 1単位 15時間	【実務経験】 有	助産師として急性期病院での実務経験30年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。				
【概要】 人々の暮らしや地域包括ケアシステムの基本的知識を活かし、地域で療養する対象のニーズに応じてサービスを調整し、効果的に社会資源を活用することでQOLを高め、自立した生活が送れるよう援助するプロセスやその実際を学びます。さらに、対象の生活全般のニーズに対応するチームケアとは何か、それらに関わる職種との連携・協働のありかたとは何かについて理解し、チームケアにおける看護の役割について考えます。 また、療養の場の移行に伴い必要となってくる看護と医療機関との連携や、その支援の方法の実際を、健康の社会的決定要因をもとに事例展開を通して学びます。							
【到達目標】 1. 地域包括ケアシステムを支えるチームについて理解し、チーム内での看護の役割を考えることができる。 (知識・理解) (学びに向かう力) 2. 個別に応じたケアマネジメントとは何かを検討し、必要な看護について考えることができる。 (知識・理解) (思考・判断・表現)							
【授業計画・内容】							
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)		
1	ケア マネ ジ ン メ ン ト	ケアマネジメント・ケース マネジメントの概念とその プロセス	1. 看護が担うケアマネジメント・ケースマネジメント の概念 1) サービスの統合、ケアの継続性 2) 残存機能の維持・向上 (ストレングス) 3) 意思決定支援 2. ケアマネジメント・ケースマネジメントの過程 3. 社会資源の理解と活用 4. ケアマネジメント・ケースマネジメントの実際 1) ニーズのアセスメント 2) サービスを結びつける調整 3) 実施、モニタリング、評価、フィードバック	小窪 100%	筆記試験 100%		
2							
3	多 職 種 連 携	地域包括ケアに関わる他機 関・多職種との連携	1. 地域包括ケアに関わる他機関・多職種の特 徴 1) 行政との連携 2) 地域包括支援センターとの連携 3) 居宅介護支援事業所との連携 4) 介護サービス事業所との連携 5) 住民との連携 2. 他機関・多職種との連携の実際 エコマップ				
4	チ ー ム	チームアプローチの意義お よびその方法	1. チームケア 1) チームケアとは 2) チームアプローチの意義と方法 3) 多職種との連携 4) チームケアにおける看護の役割				
5	療 養 移 行 支 援	療養の場の移行に伴って必 要となる、看護や医療機関 との連携	1. 療養移行支援とは 2. 療養移行支援のプロセス 3. 医療機関への入退院時の連携 1) 医療機関との連携 2) 対象・家族への支援 4. 介護施設との連携 1) 介護施設との連携 2) 対象・家族への支援 5. 施設と在宅との連携 1) 施設との連携 2) 対象・家族への支援				
6	メ ケ ン ア 護 ト マ と ネ ジ	演 習	ケアマネジメント演習と 必要な看護の検討			演習) ケアマネジメントおよび必要な看護を考える 事例1) 人工呼吸器を装着しているALSの療養者 事例2) 肝臓がん(終末期)の療養者 ※演習ではICFモデルを活用する	
7							
8 ※1H			終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】 自分の住む地域の包括ケアシステムにも関心をもち、調べてみましょう グループワークには積極的に参加しましょう							
【テキスト】 講師使用資料							
【参考図書・文献】 メ) 新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」 照) 「基礎からわかる地域・在宅看護論」 ミネルヴァ書房) 「よくわかる地域包括ケア」 医) 「地域・在宅看護の基盤」 日看協) 「家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ概論編」 厚生労働統計協会) 「国民の福祉と介護の動向」							

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
災害看護学	4年次 前期	中村 ゆかり	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
	【単位 時間数】	寺下 知子	泉大津急性期メディカルセンター	看護師
	1単位 30時間	【実務経験】	看護師として急性期病院での実務経験25年以上	
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】				
看護者として、災害に対応できる知識・技術・態度を身につけることを目指す。多様な災害の被災者の体験を理解する。看護職として取り組む防災の重要性を理解し、具体的対策を述べる事が出来る。災害発生から各サイクルに応じた看護と専門職間の連携と共同について考え理解を深める。				
【到達目標】				
1. 災害医療・災害看護に関する基礎知識を理解する。（知識・技能） 2. 災害サイクルや生活の場に応じた看護の役割を理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 被災者の特性に応じた看護の役割を理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現） 4. 国際救援活動について理解する。（知識・技能）				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)
1	災害医療・災害看護の基礎	1. 災害医療について理解する 2. 災害看護について理解する		中村 50%
2		1. 災害医療について理解する 1) 近年の国内外における災害 2) 災害看護のはじまりと役割の変化 3) 災害の定義と災害の種類と健康障害 4) 災害関連死 5) 災害が人々に与える影響 ①災害が及ぼす健康の社会的決定要因 2. 災害看護について理解する		
3		1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4) 国際救援と看護 5) 災害看護における倫理		
4	災害サイクルと看護	3. 災害サイクルに応じた看護の役割	1. 災害サイクルと場の違いに応じた看護 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期 2. 災害とこころのケア 3. 遺族のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア	中村 50%
5		4. 対象の特性に応じた看護の役割	1. 対象の特性に応じた看護 1) 子どもに対する災害看護 2) 妊婦に対する災害看護 3) 高齢者に対する災害看護 4) 障害者に対する災害看護 5) 精神障害者に対する災害看護 6) 慢性疾患患者に対する災害看護 7) 在日外国人に対する災害看護	
6				
7				
8	災害看護の実践	5. 災害サイクルに応じた看護の実践（状況設定によるワーク）	状況設定による災害サイクルに応じた看護の実践についてGW	寺下 50%
9				
10				
11				
12		6. 災害サイクルに応じた看護の実践（演習）	状況設定による災害サイクルに応じた看護の実践についてGWした内容を演習	
13				
14		7. 災害サイクルに応じた看護の実践（発表）	GWした内容を発表	
15 1H				
16 ※1H	終講試験			
【講義に向けての課題・特記事項】				
【テキスト】				
医系看護「災害看護学・国際看護学」				
【参考図書・文献】				
メ)「ナーシング・グラフィカ 災害看護」				

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
国際看護学	4年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	酒井 ひろ子	近畿大学 看護学部 教授	助産師
		【実務経験】 有	助産師として実務経験10年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	

【概要】

国際的な視野から健康問題を捉え、保健医療分野における国際協力の意義と実際について理解する

【到達目標】

1. 国際看護学に関する基礎知識について理解する。(知識・技能)
2. 世界の貧困と健康格差や健康課題について理解する。(知識・技能)
3. 異文化を背景にもつ対象の健康問題と看護のあり方について理解する。(知識・技能)
4. 国際保健医療活動における看護の役割について理解する。(学びに向かう力) (知識・技能) (思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法
1	国際看護の基礎	国際看護とは グローバルヘルスの現状と課題	教授内容(教育要綱) 日本の現状とグローバル化	酒井 100%	常行態度・課題 などを総合的に 評価する
2		国際保健医療の課題①			
3		国際保健医療の課題②	グローバルな人材とは		
4		国際機関の役割	・グローバル化と教育 ・看護学分野のグローバル化		
5		国際看護活動の実際	ボランティア論		
6	異文化を考慮した看護	異文化とコミュニケーション	SDGsとは、各目標の事例から地球規模の課題を考察する 貧困とは		
7		日本における多文化共生社会と看護の役割	SDGsとは、各目標の事例から地球規模の課題を考察する DVとは		
8		日本に住む外国人の健康問題と支援について	SDGsとは、各目標の事例から地球規模の課題を考察する Human sexualityとは		
9		日本に住む外国人の健康・生活課題にかかわる地区診断と活動計画の作成	SDGsとは、各目標の事例から地球規模の課題を考察する ジェンダーについて Still birthとケア		
10					
11	国際協力と看護	関心のある国の健康に影響を与える社会背景を理解しながら、健康問題についてまとめる。	人身売買と子ども労働		
12			国際看護とは		
13			災害と国際支援の実際		
14		発表	国際看護学グループ発表		
15					

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看護「災害看護学・国際看護学」

【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	【臨床経験】	
疾病治療論8 『産み』『育てる』 (生殖系・遺伝子) (小児科学)	3年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	大西 津仁	ベルランド総合病院 周産期母子センター	医師	30年以上	
		宮武 崇	ベルランド総合病院 周産期母子センター	医師	20年以上	
		阿部 元	ベルランド総合病院 乳腺外科センター	医師	30年以上	
		大島 科夫	ベルランド総合病院 周産期母子センター	医師	30年以上	
		【実務経験】 有 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。				
【概要】 人が子どもを『産み』『育てる』という男女の生殖機能に障害が発生した場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を理解し、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。 小児の身体的特徴・疾病を理解し、状態の観察・症状の観察ができるよう基礎的知識が習得できる。						
【到達目標】 1、生殖系の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力) 2、遺伝子の疾患発症の経過および検査と診断、遺伝カウンセリングについて理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力) 3、小児特有の各疾患の診断と治療について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)						
【授業計画・内容】						
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)	
1	女性生殖系疾患	『生殖系』 2章 女性生殖系の構造と機能 3章 症状とその病態生理	外性器、乳房、内性器、性分化と性腺の発生 性周期と性ホルモン、妊娠の成立、妊娠の診断	大西 30%	筆記試験 100%	
2		4章 診察・検査と治療・処置	診察・治療器具、理学的検査、病理検査 画像検査、内視鏡検査、治療・処置、手術			
3		5章 疾患の理解 B-①外陰の疾患 ②陰の疾患 ③子宮の疾患	性分化疾患(性分化疾患の定義と分類) 臓器別疾患(外陰・陰・子宮)			
4		④卵管の疾患 ⑤卵巣の疾患 ⑥骨盤内炎症性疾患 C:機能的疾患①～④ D:感染症	性分化疾患(性分化疾患の定義と分類) 臓器別疾患(卵管・卵巣・骨盤内炎症性疾患) 月経異常、月経随伴症状、不妊症、不妊症 感染症(性感染症)機能的疾患			
5	乳腺	『乳腺の疾患』(臨床外科看護各論) 1章-D 乳がん、乳腺症、乳腺炎	乳腺の疾患(乳癌・乳腺疾患)	阿部 5%		
6	遺伝子疾患	『遺伝子』遺伝子の疾患発症の経過および検査と 診断、遺伝カウンセリング 遺伝と母性看護、遺伝子と染色体 単一遺伝子病、染色体異常、受精の重要性 (母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護)	遺伝子疾患	宮武 5%		
7	小児疾患	『小児科学』疾患と理解 3章 代謝性疾患 4章 内分泌疾患	先天異常(DVD鑑賞) 新生児マススクリーニング、先天性代謝異常症 代謝性疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患 性腺の異常	大島 60%		
8		5章 免疫・アレルギー・リウマチ疾患	アレルギー概論、アレルギー疾患、原発性免疫不全症 リウマチ性疾患			
9		6章 感染症	微生物総論、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症			
10		7章 呼吸器疾患	呼吸器疾患の診断の手順、先天性喘息、上気道の疾患 気管支・肺・胸膜疾患			
11		8章 循環器疾患	先天性心疾患、後天性心疾患、心臓律動の異常、突然死			
12		9章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患 小腸・大腸の疾患、膵臓・胆膵の疾患 肝臓・胆嚢の疾患、急性乳幼児下痢症			
13		10章 血液造血器疾患、 11章 悪性新生物	貧血、出血性疾患、造血器腫瘍、脳腫瘍、 その他の固形腫瘍			
14		12章 腎・泌尿器および生殖器疾患	先天性腎尿路異常、糸球体疾患、尿管間質疾患 慢性腎臓病、急性腎障害、生殖器・外性器の疾患			
15 ※1H		13章 神経疾患、 14章 運動器疾患、 15～17章 感覚器系 18章 精神疾患	神経系の先天異常、癲癇性疾患、脳性麻痺 運動器疾患 皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患 発達障害、神経症の疾患			
16 ※1H		総論試験				
【講義に向けての課題・特記事項】						
【テキスト】 医)系看「小児臨床看護各論」 医)系看「女性生殖系」 医)系看「臨床外科看護各論」 メ)「ウィメンズヘルスと看護」 【参考図書・文献】						

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
病気回避行動を支える看護の演習	3年次前期	林田 杏樹	府中病院	看護師
	【単位 時間数】	福原 有嘉子	ベルビアノ病院	看護師
		田村 留美子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
	1単位 20時間	【実務経験】	看護師として急性期病院での実務経験10年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
		有		

【概要】

何らかの心身状態があるときを「半健康」と呼ぶ。これらの状態は、感染症、外傷などの疾患につながる準備状態となる。また半健康状態は持続させると重症化することがあり、半健康状態を持続させないことは、病気の回避にもつながる。

病気回避行動を支える看護の演習では、社会的決定要因をふまえ事例を用いて、対象の健康状態保持・増進に向け、自らの健康をコントロールしていくための支援について学ぶ。

【到達目標】

- あらゆる発達段階にある対象を統合的に捉え、対象のおかれている状況を判断する。(思考・判断・表現)
- あらゆる発達段階にある対象の健康観について考えることができる。(知識・技能)(学びに向かう力)
- 対象の背景や思いから、健康課題について考えることができる。(知識・判断・表現)
- 対象の健康に与える効果を考えながら、健康を支援するためのプログラムを提案することができる。
(知識・技能)(思考・判断・表現)
- 健康の保持・増進に向けた多職種との連携と看護の役割を考える。(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
- 自らの健康をコントロールしていくヘルスプロモーション支援を考えることができる。(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数		授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1 ※1H	オリ 演 習	講義	授業（演習）オリエンテーション ライフステージにおけるヘルスプロモーション	初回：田村 福原 50% 林田 50%	筆記試験 100%
2	援助 の 実 際 展 開 (食 べ る)	講義	事例を用いたペーパーシュミレーション（「食べる」を支援する事例） ＊ICFモデルを活用して対象を理解して、看護を展開する グループワーク 健康課題に合わせた対象の看護計画をグループで作成 援助の実施・評価 発表とまとめ		
3					
4					
5					
6	援助 の 実 際 (ト イ レ に 行 く)	講義	事例を用いたペーパーシュミレーション（「トイレに行く」を支援する事例） ＊ICFモデルを活用して対象を理解して、看護を展開する グループワーク 健康課題に合わせた対象の看護計画をグループで作成 援助の実施・評価 発表とまとめ		
7		演習			
8					
9					
10		講義			
11 ※1H	終講試験				

【講義に向けての課題・特記事項】

進捗状況により変更があります

【テキスト】

医)「老年看護学」

【参考図書・文献】

メ)「ヘルスプロモーション」

【科目】 いのちの誕生を支える看護の基本	【時期】 3 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 15時間	【担当講師】 坂本 哲子	【所属】 ベルランド看護福祉大学校	【職種】 専任教員
		【実務経験】 有	助産師として実務経験5年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】 マタニティサイクルにおける母子の心身は、健康の社会的決定要因も影響されダイナミックに変化する。その中で健康課題の生じる可能性を常に意識し支援することが必要である。 いのちの誕生を支える看護の基本では、マタニティサイクルの生理的変化と経過を理解し、その経過を維持・向上するヘルスプロモーション支援を学ぶ。				
1. 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的変化と経過が理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）（学びに向かう力） 2. 妊娠期・分娩期・産褥期の心理・社会的変化（健康の社会的決定要因）が理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）（学びに向かう力） 3. 新生児の子宮外生活への適応過程が理解できる（知識・技能）（学びに向かう力）				
【授業計画・内容】				
回数		授業形態	主な内容	担当講師 （評価割合）
1	妊 娠 期	講 義	1. マタニティサイクルにおける生理的変化 2. 妊娠期の生理と看護	坂本 100%
2			3. 心理・社会的な変化と家族の変化（健康の社会的決定要因が及ぼす影響） 4. 分娩期の生理と看護	
3	分 娩 期		1. 分娩の要素 2. 分娩の経過 3. 分娩期の心理・社会的特性（健康の社会的決定要因） 4. 産婦と家族の看護	
4	産 褥 期	5. 産褥期の生理と看護	1. 産褥経過 2. 産褥期の心理・社会的特性（健康の社会的決定要因） 3. 褥婦と家族の看護 4. 施設退院後の看護	
5				
6	新 生 児 期	6. 新生児の生理的特性子宮外生活への適応過程と看護		
7				
8 ※1H	終講試験			
【講義に向けての課題・特記事項】 ・事前学習をおこなった上で、講義に参加すること ・効果的に学習ができるようお互いに協力すること ・各自で得た知識は協同学習で共有すること				
【テキスト】 医）系看「母性看護学各論」 医）系看「小児看護学概論・小児臨床看護総論」				
【参考図書・文献】 厚生労働統計協会）国民衛生の動向2023/2024 メ）病気が見えるVol. 10				

【科目】	【時期】	【担当講師】		【所属】	【職種】
いのちの誕生を支える 看護の実際	3年次 前期	山下幸代	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
	【単位 時間数】				
	1単位 30時間	【実務経験】	助産師として急性期病院にて実務経験20年以上		
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】					
マタニティサイクルにある母子とその家族の特徴を理解し、安全で快適に過ごすための支援を学ぶ。 マタニティサイクルの母子の心身の変化は、生理的過程であるが健康の社会的決定要因も影響されダイナミックに変化する。そのため健康逸脱の可能性を常に意識しなければならない。母子の状態をアセスメントし、妊産婦とその家族のセルフケア能力を発揮できる看護を考える。					
【到達目標】					
1. マタニティサイクルにある対象を統合的に捉え、対象のおかれている状況を判断できる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)					
2. マタニティサイクルにおける健康課題について考えることができる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)					
3. マタニティサイクルに必要な援助技術を実践できる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)					
【授業計画・内容】					
回数	授業形態	主な内容			担当講師 (評価割合)
1	妊 娠 期	1. 妊娠期の健康課題と看護	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常 6. 異所性妊娠 7. ハイリスク妊婦の看護		山下 100%
2		2. 妊婦と胎児のアセスメント	1. 妊娠経過と胎児の診断 2. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 3. 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント (健康の社会的決定要因を活用する)		
3					
4	3. 妊娠期に必要な援助技術	1. 母体計測 2. レオポルド触診法 3. 超音波ドップラー法 4. ノンストレステスト			
5	分 娩 期	4. 分娩期の健康課題と看護	1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 7. 分娩第3期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術 10. 異常のある産婦の看護 11. 異常分娩時の産婦の看護 12. 分娩時異常出血のある産婦の看護		
6		5. 産婦と胎児のアセスメント	1. 分娩経過の診断 2. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 3. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント (健康の社会的決定要因を活用する)		
7					
8 ※1H		6. 分娩期に必要な援助技術	1. 分娩時の安楽な体位 2. 分娩時のマッサージ法・圧迫法		
9	産 褥 期・ 新 生 児 期	7. 産褥期の健康課題と看護	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥血栓症 4. 精神障害 5. 異常のある産婦の看護 6. 育児に困難さを感じてくる母親への看護 7. 児を亡くした産婦・家族の看護		
10		8. 新生児期の健康課題と看護	1. 新生児仮死 2. 分娩外傷 3. 低出生体重児 4. 高ビリルビン血症 5. 新生児・乳児ビタミンK欠乏症		
11					
12					
13		9. 産婦と新生児のアセスメント	1. 産褥経過と新生児の診断 2. 産婦と新生児の健康状態のアセスメント 3. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント (健康の社会的決定要因を活用する)		
14					
15		10. 産褥期・新生児期に必要な援助技術	1. 新生児のバイタルサイン測定と全身観察 2. 新生児の抱き方、授乳法、排気法 3. おむつ交換、沐浴（ドライテクニック） 4. 乳房・乳頭マッサージ		
16 ※1H	終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】					
・事前学習をおこなった上で、講義に参加すること ・効果的に学習ができるようお互いに協力すること ・各自で得た知識は協同学習で共有すること					
【テキスト】					
医) 系着「母性看護学各論」 医歯薬) 直前 母性看護実習プレブック					
【参考図書・文献】					
厚生労働統計協会) 国民衛生の動向 2024/2025 メ) 病気が見えるVol. 10					

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】		
病氣対処行動を支える看護 の実際 4	3 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 30 時間	中川 依未	ベルビアノ病院	看護師		
		中増 真由美	京大津急性期メディカルセンター	看護師		
		飯野 典子	ベルランド総合病院	看護師		
		松嶋 真里香	ベルランド総合病院	看護師		
		【実務経験】	看護師として急性期病院での実務経験20年以上			
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。			
【概要】 あらゆるライフサイクルにある対象が、様々な原因で引き起こされる疾患の診断・治療期、安定期に及ぶ一連の回復過程をたどり、社会復帰に至る過程を学ぶ。医療を受ける対象の病氣対処行動を支え、健康の社会的決定要因に関連した支援及び社会資源の有効活用・多職種連携・看護とその役割を理解する。						
【到達目標】 1. 各ライフサイクルにある対象の変わりゆく健康状態について理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現) 2. 病氣対処行動を支えるための理論を用いて、病とともに生活する対象の理解を深めることができる。(知識・技能)(思考・判断・表現) 3. 変化する健康状態にある対象が、主体的に病氣対処行動ができるための看護について考えることができる。(知識・技能)(思考・判断・表現) 4. 病氣対処行動が必要な対象を支えるための多職種連携と看護の役割について考えることができる。(知識・技能)(思考・判断・表現) 5. 病氣対処行動が必要な対象を支える看護について探求心を持つことができる。(学びに向かう力)						
【授業計画・内容】						
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)	
1 ※1H	講義	1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 脳血管障害と共に生きる対象を支える看護		中川 30%	筆記試験 100%	
2		1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 脳血管障害と共に生きる対象を支える看護				
3		1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 脳血管障害と共に生きる対象を支える看護				
4		1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 脳血管障害と共に生きる対象を支える看護				
5		1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 脳血管障害と共に生きる対象を支える看護				
6	講義	1. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 筋骨格系の障害と共に生きる対象を支える看護		中増 35%		
7		2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 筋骨格系の障害と共に生きる対象を支える看護				
8		2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 筋骨格系の障害と共に生きる対象を支える看護				
9		2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 筋骨格系の障害と共に生きる対象を支える看護				
10		2. “動く”・“生きる一意識”に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際 筋骨格系の障害と共に生きる対象を支える看護				
11	性・生殖器官に障害を持つ対象を支える看護	講義	1. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象の特徴と看護 2. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際	飯野 15%		
12			2. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際			
13			2. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際			
14			2. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際			
15			2. 性・生殖器官に関連した病と共に生きる対象を支える看護の実際			
16 ※1H	終講試験			松嶋 20%		
【講義に向けての課題・特記事項】						
【テキスト】 図) 系書「脳・神経」「腎・泌尿器」「女性生殖器」「運動器」 【参考図書・文献】 図) 系書「成人看護学総論」「老年看護学」「小児看護学概論 小児臨床看護概論」「成人看護学概論」						

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
病氣対処行動を支える看護の演習 1	3 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 30 時間	庵野 圭子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験15年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】 重篤で緊急性の高い疾患や外傷、生体侵襲の大きい治療によって生命危機に陥った対象は、集中的なケアを受けながら回復する。事例を用いて、生体侵襲の大きい疾病・治療によって生命の危機に陥っている対象に対し、対象が発する情報を系統立てて整理し、適切なアセスメントを行うための基本的な知識と思考方法を学ぶ。また、集中的な観察とケアを受けて健康回復を図る必要がある対象の病態や疾患・治療を理解し、対象に起こりうる合併症やリスクを予測しながら臨床判断に基づいて実践される看護を学ぶ。				
【到達目標】 1. 生体侵襲を受けた対象を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現) 2. 生体侵襲が対象に及ぼす影響を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現) 3. 生体侵襲から回復過程にある対象の看護を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現) 4. 理論を活用し、生体侵襲から回復過程にある対象の病氣回復行動を支える看護を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現) 5. 生体侵襲からの回復と社会復帰に向かう人への看護に関心を持ち、主体的に看護を探究する姿勢を養う。(学びに向かう力)				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1	急性・クリティカル期にある対象の看護	1. 生体侵襲によって生命の危機に陥っている対象の回復過程と看護	庵野 100%	筆記試験 30% 課題提出物 60% レポート 10%
2		アセスメント 問題の明確化 計画立案		
3		2. 生体侵襲による生体反応と回復過程の理解		
4		3. 事例に基づいたアセスメントと医療問題・共同問題・看護上の問題点の整理		
5		4. 合併症についての理解と看護		
6		・病態解釈(病態生理・検査・治療の理解)		
7		・健康の社会的決定要因		
8	演習	2. あらゆる場(救急外来・手術室・集中治療室)における多職種連携と看護の役割		
9		3. 生体侵襲によって生命の危機に陥っている対象の回復過程と看護		
10		実施・評価		
11		3. 1) シミュレーション演習		
12		① 術前日の看護実践		
13		② 術当日の看護実践		
14		③ 術後1日目の看護実践		
15	回復過程の看護にある	4. 生体侵襲から回復過程にある対象の病氣回復行動を支える看護		
		4. 回復過程にある対象の病氣回復行動を支える看護		
		1) 回復期に向けた支援		
		2) 社会復帰に向けた支援		
【講義に向けての課題・特記事項】 レポート ・クリティカルケアが実践される部門の機能と役割 ・理論の整理(フィンク・アギュラとメズイック・セリエ・ラザルス・コーン・障害受容 など) e-PFに学習内容をファイルして授業に臨んで下さい テキストを用いて、計画的に学習に臨みましょう				
【テキスト】 医)「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「救急看護学」「クリティカルケア看護学」他 南)「成人看護学概論」 【参考図書・文献】 医)「臨床看護総論」「成人看護学総論」「老年看護学」他				

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
病気対処行動を支える看護の演習2	3年次 後期	金子 裕子	ペルランド看護福祉大学校	専任教員
	【単位 時間数】 1単位 15時間	【実務経験】 有	看護師として急性期病院にて実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	

【概要】

本講では、地域で健康課題をもちながら生活を営む対象が自立して健康を維持するためのヘルスプロモーション行動を支援した実習を振り返り、健康の社会的決定要因を用いて、健康に影響を与える要因に関連付けて対象理解を行う。さらに、健康管理の自立へ向けた支援のあり方について、ヘルスプロモーションの概念図（5つの活動）・5つのプロセス戦略を用いて、学びの整理・統合を行い、看護について探求する能力を養う。

【到達目標】

1. 各ライフサイクルにある対象の健康管理の自立へ向けた看護の役割について再構築できる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 各ライフサイクルにある対象の健康管理の自立へ向けた看護について探求心をもって学ぶことができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1 ※1H	演習	本講義の概要、学びを再構築するための健康の社会的決定要因を用いてヘルスプロモーションの概念図（5つの活動）5つのプロセス戦略の活用方法について	金子 100%	参加態度 レポート 100%
2		健康の社会的決定要因を用いて、健康に影響を与える因子を関連付けて小児期における対象理解を行う。（個人ワーク・グループワーク）		
3		ヘルスプロモーションの概念図（5つの活動）・5つのプロセス戦略を用いて、小児期における学びの整理・統合を行う。		
4		健康の社会的決定要因を用いて、健康に影響を与える因子を関連付けて成人期・老年期における対象理解を行う。（個人ワーク・グループワーク）		
5		ヘルスプロモーションの概念図（5つの活動）・5つのプロセス戦略を用いて、成人期・老年期における学びの整理・統合を行う。		
6		4回までの学びの内容をもとに、あらゆるライフサイクルにある対象のヘルスプロモーション支援について考える。（個人ワーク・グループワーク）		
7		学びの発表・共有会		
8		授業終了レポート作成 テーマ：「地域で健康課題をもちながら生活する対象が、自立して健康を維持するために必要な看護とは」		

【講義に向けての課題・特記事項】

あらゆるライフサイクルにある対象に行われた支援についての学びを、健康の社会的決定要因を用いて、健康に影響を与える因子を関連付けて対象理解を行っていきましょう。それらをもとに、学びの整理、統合を行い、最終的にレポートのテーマに言及しましょう。

【テキスト】

これまでの学習に活用したテキストや資料、実習ポートフォリオを準備

【参考図書・文献】

メ) 別巻 ヘルスプロモーション

【科目】	【時期】	【担当講師】		【所属】	【職種】	
病氣対処行動を支える看護の演習3	3年次 後期	角野 雅春		ベルランド看護福祉大学校	保健師	
	【単位 時間数】					
	1単位 30時間	【実務経験】		保健師として急性期病院での実務経験15年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】						
慢性病者の複雑な状態についての身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを論理的、系統的に学ぶ科目である。 慢性病者の身体的、心理的、社会的な側面の情報収集、分析・評価、フィジカルアセスメントについて多角的に学ぶ。						
【到達目標】						
1. 慢性病者を対象に社会的決定要因に基づき論理的、系統的に説明することができる(知識・技能)(思考・判断・表現)						
2. 慢性病者を対象にしたフィジカルアセスメント技術を看護実践に適用できる(知識・技能)(思考・判断・表現)						
3. 慢性病者を対象にしたフィジカルアセスメントの技術を実施できる(知識・技能)(思考・判断・表現)						
4. 包括的アセスメントが必要な対象を支える看護について探求心を持つことができる(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)						
【授業計画・内容】						
回数	授業形態	主な内容			担当講師 (評価割合)	評価方法
1	講義	病氣対処行動を支える看護の目的と意義			角野 100%	演習 40% 筆記試験 60%
2		呼吸・循環に関する系統的フィジカルアセスメントの検討				
3	1. 慢性疾患(心不全)を病む人の フィジカルアセ スメントの実際	内部環境調節機能に関する系統的フィジカルアセスメントの検討				
4		栄養・代謝機能に関する系統的フィジカルアセスメントの検討				
5 ※1H		慢性疾患(心不全)を病む人のフィジカルアセスメントの統合				
6						
7		慢性心不全急性増悪に対する包括的アセスメント事例の検討				
8	2. 慢性疾患(心不全)を病む人への ヘルスアセスマ ントの実際	慢性心不全急性増悪に対する包括的アセスメント事例の実技①				
9		慢性心不全急性増悪に対する包括的アセスメント事例の実技②				
10		慢性心不全急性増悪に対する包括的アセスメント事例の実技③				
11		慢性心不全の回復過程における包括的アセスメント事例の検討				
12						
13		慢性心不全の回復過程における包括的アセスメント事例の実技①				
14		慢性心不全の回復過程における包括的アセスメント事例の実技②				
15						
16 ※1H		終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】						
演習評価は保健師助産師看護師国家試験出題基準令和5年版(厚生労働省医政局看護課)に基づき作成した評価表を用いて評価する						
【テキスト】						
南江堂 成人看護学概論 慢性期看護						
医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論 臨床看護学総論 クリティカル看護学 循環器 呼吸器 老年看護学 地域・在宅看護の実践						
南江堂 急性期看護						

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
病氣対処行動を支える看護の演習 4	4年次 前期	中村 ゆかり	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
	【単位 時間数】 1単位 15時間	【実務経験】 有	看護師としての実務経験30年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 ヘルスプロモーション実習6では、あらゆるライフサイクルにある対象が、医療を受けながら、様々な原因で引き起こされる疾患や障害を持ちながら健康を維持する人のヘルスプロモーションの実際を学んだ。小児期・成人期・老年期の対象へのヘルスプロモーション支援の経験を共有し、病氣対処行動を支える看護についての学びを深める。					
【到達目標】 1. 医療の支援が必要な対象の健康問題を健康の社会的決定要因で捉え、対象のヘルスプロモーションの支援や看護の役割について深めることができる。 （知識・技能）（思考・判断・表現） 2. 各ライフサイクルにある対象の医療の支援が必要な対象のヘルスプロモーションの支援についての探求心を持つことができる。 （学びに向かう力）					
【授業計画・内容】					
回数		授業形態	主な内容	担当講師 （評価割合）	評価方法 （割合）
1	対象理解	協働学習 （発表）	テーマに沿って、実習を振り返り学びを再構築する ・医療の支援が必要な対象 ・医療の支援が必要な対象の健康問題	中村 100%	GW課題提出物 70% GW参加度 10% レポート 20%
2		個人学習 （まとめ）			
3	小児期にある対象の看護	協働学習	テーマに沿って、実習を振り返り学びを再構築する ・小児期にある対象の看護 ・地域移行移行に向けた支援の支援の実際を考察する		
4		個人学習			
5	成人・老年期にある対象の看護	協働学習	テーマに沿って、実習を振り返り学びを再構築する ・成人期、老年期にある対象の看護 ・地域移行移行に向けた支援の支援の実際を考察する		
6		個人学習			
7	まとめ	協働学習	テーマに沿って、医療の支援が必要な対象のヘルスプロモーション支援について探求する 「病氣対処行動を支える看護～地域移行に向けた看護～」		
8		個人学習			
【講義に向けての課題・特記事項】 これまでの学習で活用したテキストや資料、ヘルスプロモーション実習6の実習ポートフォリオを持参する					
【テキスト】 講師使用資料 【参考図書・文献】 医）系看護「小児看護学概論・総論」「小児臨床看護各論」「老年看護学」「老年看護 病態・疾患論」 南）「成人看護学概論」					

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
病氣対処行動を支える看護の実際 (子ども) 1	3年次 前期	金子 裕子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
	【単位 時間数】 1単位 30時間	【実務経験】 有	看護師として急性期病院にて実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】 健康障害や健康問題をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれているさまざまな状況に合わせた看護の実際を理解する。 本講は、各健康段階にある子どもの理解を深めるために、健康の社会的決定要因を活用し、対象のミクロからマクロ にかけての様々な健康に影響を与える因子を関連付けて考える力を養う。				
【到達目標】 1. 健康障害・入院が小児とその家族に及ぼす影響を知り、様々な状況にある小児と家族への看護を理解する。 (思考・判断・表現) (学びに向かう力) 2. 小児に必要な観察技術・検査処置に伴う技術・処置を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現) 3. 子どもの権利と倫理的配慮に基づいた援助方法を理解する。(学びに向かう力)				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1 ※1H	講義	健康障害・入院が子どもと家族に及ぼす影響	金子 100%	筆記試験 80% レポート PF 20%
2		症状を示す子どもの看護 ・子どもが体験する症状の特徴、発達段階・症状に応じた看護 ①不きげん ②啼泣 ③痛み ④呼吸困難 ⑤チアノーゼ ⑥ショック ⑦意識障害 ⑧痙攣⑨発熱 ⑩嘔吐 ⑪下痢 ⑫便秘 ⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血 ⑰発疹 ⑱黄疸		
3				
4		外来を受診する子どもと家族の看護・小児の家族の特徴		
5		障害のある子どもと家族の看護 ・障害のとりえ方 ・障害のある子どもと家族の特徴・社会的支援		
6		子どもの虐待と看護 ・子どもの虐待とは(定義と特徴的にみられる状況) ・リスク要因と発生予防・早期発見・求められるケア		
7		検査・処置を受ける子どもの看護 ・子どもにとっての検査・処置体験について ・ディストラクション・プレパレーションの実際		
8		〃 演習		
9		小児の観察技術：コミュニケーション・バイタルサイン測定・身体計測		
10		〃 演習		
11		呼吸症状の緩和の技術(吸引・吸入療法・酸素吸入)		
12		〃 演習		
13		輸液管理・検体採取の技術(骨髄穿刺・腰椎穿刺・採血・採尿)		
14		〃 演習		
15		与薬の技術・演習		
16 ※1H		終講試験		
【講義に向けての課題・特記事項】 7回目以降の小児の技術については、動画を視聴し授業に臨むこと。 進捗状況により変更があります				
【テキスト】 医)系書「小児看護学概論・総論」				
【参考図書・文献】 医)系書「小児看護学各論」 医)「根拠と事故防止からみた小児看護技術」 医)「看護のための人間発達学」				

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
病気対処行動を支える看護の実際 (子ども) 2	3年次 後期	室山 尚美	ベルランド総合病院	看護師	
	【単位 時間数】 1単位 30時間	畠山 知子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
		早金 尚香	ベルランド総合病院	看護師	
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】					
健康障害のある小児とその家族に応じた看護を学ぶ。小児期に特有の健康状態別を病期別にとらえ、各病期にある子どもとその家族への看護の特徴を説明できる。 本講の看護過程の展開においては、対象理解のツールとして、健康の社会的決定要因を活用し、小児特有の健康課題の明確化を目指し、演習を行う。					
【到達目標】					
1. 健康障害のある小児の看護を発達段階別・経過別・治療別に学ぶ。(知識・技能) 2. 小児の健康上の問題を解決するための思考過程を明確にできる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)					
【授業計画・内容】					
回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)	
1	講義	低出生体重児・疾患のある新生児の看護 1) 低出生体重児の特徴 2) NICUにおける小児の看護 低出生体重児の看護 呼吸窮迫症候群 未熟児網膜症 新生児仮死 3) 染色体異常	早金 20%	筆記試験 100%	
2					
3 ※1H					
4	講義 演習	小児の看護過程の展開 ①子どもの看護過程の特徴 ②子どものアセスメントガイド ③各発達別アセスメント	室山 25% 畠山 55%		
5		消化・吸収機能を障害された子どもと家族の看護 (急性・開手術期) 1) 消化吸収機能障害の特徴 2) 主な疾患と経過別・治療別看護 ①乳児下痢症 (腸炎含む) ②腸重積 ③虫垂炎 (開手術期含む)			
6					
7		呼吸機能を障害された子どもと家族の看護 (急性期～慢性期) 1) ガス交換障害の特徴 2) 主な疾患と経過別・治療別看護 ①細気管支炎 ②細菌性肺炎 ③気管支喘息			
8					
9		循環機能を障害された子どもと家族の看護 (急性期～慢性期) 1) 循環障害・血行動態の障害の特徴 2) 主な疾患と経過別治療別看護 ①ファロー四徴症 ②川崎病			
10					
11		腎機能を障害された子どもと家族の看護 (急性期～慢性期) 1) 腎・泌尿器機能障害の特徴 2) 主な疾患と経過別治療別看護 ①ネフローゼ症候群			
12		脳神経機能を障害された子どもと家族の看護 (在宅療養・終末期) 1) 脳神経機能障害の特徴 2) 主な疾患と経過別治療別看護 ①髄膜炎 ②熱性痙攣 3) 脳性麻痺の子どもの看護			
13					
14		代謝機能を障害された子どもと家族の看護 (急性期～慢性期) 1) 代謝性機能障害の特徴 2) 主な疾患と経過別治療別看護 ①1型糖尿病			
15		小児の看護過程の展開 演習：事例 (対象理解には健康の社会的決定要因を用いて、小児特有の健康課題に対する看護過程を展開し、理解を深めることを目指す。)			
16 ※1H	終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】					
【テキスト】 医) 系書「小児看護学各論」 【参考図書・文献】 医) 系書「小児看護学概論・総論」 医) 「根拠と事故防止からみた小児看護技術」 医) 「看護のための人間発達学」					

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
こころを支える看護 の実際	3年次 前期	長井 理治	訪問看護ステーションうらら	看護師	
	【単位 時間数】 1単位 15時間	【実務経験】 有	看護師としての実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 精神看護の基盤となるような様々な知識を深め、精神の機能とその障害から看護の実際と健康の社会的決定要因に取り組む支援を理解する					
【到達目標】 1. 脳の構造と精神の関連について既習知識を基盤として考える。(思考・判断・表現)(学びに向かう力) 2. 薬物療法と有害事象について学ぶ。(知識・技能)(思考・判断・表現) 3. 回復を支えるプログラムについて学ぶ。(知識・技能) 4. 精神障害のある対象の入院環境での安全管理について学ぶ。(知識・技能)(思考・判断・表現) 5. 精神障害のある対象の身体のケアについて考えることができる。(知識・技能)(学びに向かう力)					
【授業計画・内容】					
回数	授業形態	主な内容		評価割合	評価方法
1	精神障害の とらえ方	1. 精神障害のとらえ方	1. 精神障害のとらえ方 1) 生物学的側面・心理学的側面・社会的側面 2) 臨床検査 3) 器質性精神障害 4) 統合失調症 5) 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 6) パーソナリティ障害 7) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 8) 神経発達性障害	長井 100%	筆記試験 100%
2					
3					
4	精神科に おける治 療・ プログラ ム	2. 精神科における治療 3. 回復を支えるプログラム	2. 精神科における治療 1) 薬物療法・電気けいれん療法 2) 精神療法 3) 環境療法・社会療法 3. 回復を支えるプログラム 1) 社会生活技能訓練 2) 認知行動療法 3) 包括型地域生活支援プログラム (ACT) ・健康の社会的決定要因に取り組む活動に必要な支援		
5	健康課題をもつ 人の 安全をまも る	4. 健康課題をもつ人の安全を まもる	4. 健康課題をもつ人の安全をまもる 1) リスクマネジメント 2) 緊急事態への対応 ① 緊急事態 ② 自殺 ③ 暴力 ④ 無断離院 ⑤ 感染症 3) 入院時の災害時のケア		
6	健康課題をもつ 人の 身体をケ アする	5. 健康課題をもつ人の身体を ケアする	5. 健康課題をもつ人の身体をケアする 1) 精神科における身体ケア 2) 精神科における身体を通じた看護のケア		
7			6. 身体合併症 1) 薬物治療を受ける患者のケア 2) 電気痙攣療法を受ける患者のケア 3) 日常生活における身体ケア		
8 ※1H	終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】					
【テキスト】 Ⅷ) 系書「精神看護の基礎」Ⅷ) 系書「精神看護の展開」 【参考図書・文献】 国民衛生の動向・国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会					

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
こころを支える看護 の演習	3 年次 後期 【単位 時間数】 1 単位 15時間	長尾 綾子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験10年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 精神障害のある対象へのケアの原則について学ぶ。 精神障害をもちながら、地域で暮らす人への支援について学ぶ。 精神障害をもつ人のストレングスモデルを用いた看護について事例を通して理解する。					
【到達目標】 1. 精神障害のある対象に対するケアの原則を理解する。（知識・技能） 2. 地域における精神保健と精神看護を理解する。（思考・判断・表現）（知識・技能） 3. 精神の健康や精神症状によって影響された対象の状態をストレングスモデル用いて、支援できる計画を立案できる 能力を養う。（思考・判断・表現）（知識・技能）					
【授業計画・内容】					
回数	授業形態	主な内容		評価割合	評価方法
1	ストレングスモデルを用いた事例展開	講義	【ストレングスモデルによる事例展開（統合失調症）】 ・ストレングス・リカバリーについて	長尾 100%	筆記試験 100%
2		演習	・情報収集（入院生活の様子） ・対象理解		
3		講義	・病態解釈 ・健康の社会的決定要因を用いて対象理解のアセスメント		
4		講義	・マッピングシート ・援助の方向性 ・援助計画立案		
5		演習	・援助計画実施 ・リフレクション		
6		講義	・プロセスレコード		
7		講義	【地域移行に向けた支援】 ・自立訓練施設、デイケア（ナイトケア）、グループホーム、訪問看護・地域活動支援センターでの支援について		
8 ※1H	終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】 ・演習最終日、PF提出。 当日、公での欠席の場合は、次回登校日に提出すること					
【テキスト】 医）系看「精神看護の基礎」 医）系看「精神看護の展開」					
【参考図書・文献】 国民衛生の動向・国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会					

(専)ベルランド看護福祉大学校 高度専門看護学科

【科目】	【時期】 3年次 前期	【担当講師】	【所属】	【職能】				
		糸谷 恵 井村 千夏 松本 友子 辻原 千晶	サンガーデン訪問看護ステーション ベルアンサンブル訪問看護ステーション ベルランド看護福祉大学校 ふちゅう訪問看護ステーション	看護師 看護師 専任教員 看護師				
		【実務経験】 有	看護師として実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。					
【概要】								
地域で療養する人の様々な生活環境や生活様式に着目し、対象の個別性を尊重した安全で快適な療養生活を送るための支援を学ぶ。								
【到達目標】								
1.在宅の場で行われるセルフケア・日常生活行動支援に関心をもって学習に取り組むことができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）								
2.在宅におけるセルフケア・日常生活行動支援に必要なアセスメントと援助の特徴および方法について理解することができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）								
3.既習の看護技術を結合し、在宅の場で対象に必要な看護を実践するための知識・技術・態度について考え、実践することができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）								
【授業計画・内容】								
回数	授業形態	主な内容		担当講師 （評価割合）	評価方法 （割合）			
1	生活 を 変 え る 看 護 技 術	在宅看護における看護技術の考え方	1.地域・在宅看護における看護技術の考え方 2.健康の社会的決定要因が生活に及ぼす影響 3.生活することを支える看護 2.在宅療養生活を支える基本的な看護技術 3)コミュニケーション 2)フィジカルアセスメント 3)環境整備 4)生活リハビリテーション	松本 55%	筆記試験 100%			
食事・栄養のセルフケアを支える看護技術		1 食事・栄養の援助の基本（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 2 食事・栄養のアセスメント 1) 食事のアセスメント （1）食事摂取能力（咀嚼・嚥下・消化・吸収能力）のアセスメント （2）食事の準備・食い物のアセスメント 2) 栄養状態のアセスメント 3) 経口摂取の援助 （1）食事に随する援助 ・食事摂取能力低下時の援助 ・誤嚥・窒息の防止・食事内容の選択・食材の種類と選択方法に関する援助 （2）栄養障害に対する援助 ・栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助 3 経管栄養法 1) 経管栄養法の種類と特徴および適応 （1）胃管栄養法 （2）経鼻経胃管受法 （3）経腸栄養法 2) 栄養剤の種類と調製 3) 経管栄養法の実施と看護 4) 合併症の予防と対処方法 5) 死期における安全管理 6) 在宅中心静脈栄養と看護 1) 適応条件 2) 在宅中心静脈栄養法（HPN）の看護 3) 在宅中心静脈栄養法（HPN）を実施している対象への看護						
排泄のセルフケアを支える看護技術		1. 排泄のアセスメント（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 2. 排泄の状況と観察 3. 排泄補助用具の種類と選択方法 4. 尿失禁と看護 5. 尿閉、膀胱留置カテーテル法と看護 1) 適応となる対象の特徴 2) 簡便的留置と看護 3) 膀胱留置カテーテル法と看護 （1）合併症の予防・対処方法 （2）在宅における安全管理と援助 6. 排泄コントロール 1) 尿便の予防と援助 （1）尿便によるコントロール （2）洗滌 （3）簡便 7. ストーマケア 1) 変化しやすいトラブルと対応 2) 日常生活支援	井村 15%					
清潔のセルフケアを支える看護技術		1. 在宅での清潔援助の時期（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 2. 清潔のアセスメント 3. 清潔の援助方法と自立支援（手段の検討） 4. 清潔援助の実施 1) 入浴 2) シャワー浴 3) 清拭 4) 口腔ケア 5. 清潔				糸谷 15%		
移動のセルフケアを支える看護技術		1. 移動・移動のアセスメント（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 移動者のアセスメント （1）認知機能 （2）姿勢保持と動作 （3）健康状態・治療 2) 援助者（家族）のアセスメント 3) 性環境のアセスメント 2. 移動・移動の援助 1) 自立度に合わせて支援 2) 排泄用具の活用 3) 住環境の調整 4) 転倒予防					松本 60%	
安全に暮らすための支援		1. 感染予防（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) スタンダードプリコーション 2) 手指の衛生 3) 在宅医療廃棄物の処理 2. 在宅における安全管理と支援（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 防犯・盗難の予防 2) 熱中症の予防 3) 節電の予防 4) 独居高齢者の防災 3. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 在宅療養者と家族への防災対策指導 2) 健康危機と連携による医療上の健康危機管理 3) 福祉機関との連携による生活上の健康危機管理 4) 行政（市町村・消防署・警察等）との連携						
呼吸を助ける支援		1. 呼吸のアセスメント（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 2. 呼吸リハビリテーションと看護 3. 在宅酸素療法と看護 1) 在宅酸素療法の適応基準 2) 在宅酸素療法における看護 （1）機器の取り扱いと日常生活指導 （2）合併症の予防 （3）在宅における安全管理 4. 在宅人工呼吸療法と看護 1) 在宅人工呼吸療法導入の条件 2) 在宅人工呼吸療法における看護 3) 救急室・家族への指導 4) 支援体制					辻原 15%	
褥瘡の予防および褥瘡発生時の対応・支援		1. 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防（健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 2. 褥瘡予防のための援助 1) 臥圧・体位分散・ポジショニング 2) 予防のための機器の種類と選択 3. 褥瘡のアセスメントとケア					糸谷 15%	
服薬の援助		1. 服薬のアセスメント（健康の社会的決定要因の影響を踏まえた） 1) 服薬アドヒアランスと影響因子 2. 服薬のアセスメント 2. 在宅療養における服薬支援 3. 服薬支援 1) 看護職による支援 2) 多職種による服薬支援						
日常生活援助演習		1. 事例に応じた日常生活援助技術演習 1) 療養者・家族・住環境のアセスメント 2) 援助の実施						
15 ※IH		最終試験				松本 60%		
16 ※IH								
【試験に向けての課題・特記事項】								
演習やグループワークには積極的に参加しましょう。 生活と暮らしを支える看護技術や設備に伴う看護技術で学んだ内容の応用・発展について学習しますので、学習を十分行って授業に臨みましょう。								
【テキスト】								
メ）身体看護学全書 地域・在宅看護論								
【参考図書・文献】								
医）「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践」 学）「よくわかる在宅看護」								
メ）ナーシング・グラフィカ「地域医療を支えるケア」「在宅医療を支える技術」 日看護「家族看護学を基礎とした在宅看護Ⅱ 実践編」								

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
地域で生活する人を支える看護の実践	3 年次 後期	津塩 昌子	ふちゅう訪問看護ステーション	看護師
	【単位 時間数】			
	1 単位 20 時間	【実務経験】	診療看護師、訪問看護認定看護師。看護師としての実務経験20年以上	
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】				
健康の社会的決定要因をふまえた上で、地域で療養する、あらゆる発達段階および様々な状況にある対象への看護の実践を学ぶ。				
【到達目標】				
1. 対象の健康維持を助け、セルフケア能力を高める看護について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）				
2. 精神疾患をもちながら在宅療養する対象に必要な看護について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）				
3. 在宅療養する小児と家族の看護について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）				
4. 認知症療養者の看護について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）				
5. 難病療養者の看護について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容		担当講師 （評価割合）
1	在宅療養者の状況・健康段階に応じた看護 講義	日常生活活動の低下予防、および疾病の再発・悪化予防が必要な対象の看護（COPD） 1. 日常生活活動の低下予防および疾病の再発予防が必要な対象の看護（COPD） （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 状態のアセスメント 2) 日常生活のアセスメントと環境整備 3) 療養者・家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援 4) 異常の早期発見と対応 5) 社会資源の活用・調整		津塩 100%
2		慢性疾患をもつ対象の看護（心不全） 1. 慢性疾患をもつ対象の看護（心不全） （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 状態のアセスメントと状態に合わせた対応・調整 2) 療養者および家族のセルフマネジメントを高める支援 3) 急性増悪の早期発見と対応 4) 社会資源の活用・調整		
3		リハビリテーションを行いながら在宅療養する対象の看護（脳血管障害） （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 在宅におけるリハビリテーション 2) 生活機能・日常生活動作（ADL）のアセスメント 3) 状態に合わせた対応・調整 4) 合併症の予防と対応 5) 居住環境のアセスメントと対応・調整 6) 社会資源の活用・調整		
4		最善の生を生きる対象の看護（がん） （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 症状マネジメント 2) 通院しながら化学・放射線療法を受ける人への支援 3) 終末期緩和ケアの実践（薬物投与、薬剤の管理） 4) 病状変化の予測と対応 5) 看とりの看護 6) 家族へのグリーフケア		
5		精神疾患をもつ対象の看護 （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 2) 療養者の自立支援とQOLの維持向上のための在宅療養支援 3) 生活上の困難と看護 4) 在宅療養継続のための社会資源の活用と家族支援		
6		在宅療養する小児と家族の看護 （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 在宅療養を必要とする小児の主な症状・病態 2) 在宅療養継続のための子どもの健康危機管理 3) 子どもの自立支援とQOLの維持向上のための在宅療養支援 4) 在宅療養継続のための社会資源の活用と家族支援		
7		認知症療養者の看護 （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 症状マネジメント 2) 日常生活上の援助 3) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 4) 問題行動と精神症状への対応 5) 療養者の自立支援とQOLの維持向上のための在宅療養支援 6) 在宅療養継続のための社会資源の活用と家族支援		
8		難病がある在宅療養者への看護（パーキンソン病） （健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント） 1) 訪問看護の対象となる主な神経退縮・療養者の特徴 2) 在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 3) 療養者の自立支援とQOLの維持向上のための在宅療養支援、尊厳保持、成長、権利擁護 4) 在宅療養継続のための社会資源の活用と家族支援		
9				
10 ※1H				
11 ※1H		総括試験		
【講義に向けての課題・特記事項】				
既習の他看護学の知識を活用しながら、在宅での療養支援を考えます。授業内容に関連することは予習をして授業に臨んでください。				
【テキスト】				
メ）新体系看護学全書 地域・在宅看護論				
【参考図書・文献】				
医）「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践」 学）「よくわかる在宅看護」				
メ）ナースিং・グラフィカ「地域療養を支えるケア」「在宅療養を支える技術」 日看護「家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅱ 実践編」				

【科目】 地域で生活する人を支える 看護の演習	【時期】 3年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 松本 友子	【所属】 ベルランド看護福祉大学校	【職種】 専任教員
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	

【概要】

在宅看護過程展開の特徴を学び、対象とその家族を支える多職種と協働・連携しながら、対象の在宅療養を支える看護を考える力を身につけましょう。

【到達目標】

1. 在宅看護過程の特徴をふまえ、事例をもとに在宅看護に必要な情報を収集・整理できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
2. 事例をもとに、対象とその家族の療養上の課題をアセスメントすることができる。（思考・判断・表現）
3. 事例をもとに、対象とその家族の生活を支える多職種とその協働・連携について述べるができる。（思考・判断・表現）
4. 事例をもとに、訪問看護計画の立案ができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
5. 訪問看護計画・訪問時の対象とその家族の状態予測をもとに、看護援助が実践できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
6. 訪問時の対象とその家族の状態・状況をもとに、実施した援助の評価ができる。（思考・判断・表現）
7. 在宅看護に関心をもち、主体的に学習・演習に取り組む態度がみられる。（学びに向かう力）

【授業計画・内容】

回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1	在宅看護の看護過程 講義	在宅看護過程の展開 1. 在宅看護過程の展開 1) 在宅看護過程の特徴 2) 情報収集とアセスメント (1) 基本的情報の整理とアセスメント ①ICFの概念を適用した基本的情報の把握 ②健康の社会的決定要因に視点を置いたアセスメント 3) 目標・計画 (1) 長期目標と短期目標、優先順位 (2) 在宅看護計画の立案 (3) 実施と評価 (4) 在宅看護の標準化 ①クリティカルパス ②看護プロトコール 2. 他(多)職種との連携 1) 在宅における連携の特徴 (1) 連携の必要性 (2) 他職種、他機関との連携 2) 医師との連携 3) 社会資源との連携 4) 入退院時における医療機関と訪問看護の連携	松本 100%	①筆記試験 80% ②課題提出 20%
2				
3	在宅における家族看護	在宅療養する小児と家族の看護の場における家族の捉え方 1. 在宅療養の場における家族のとらえ方 1) 家族とは (1) 家族の定義 (2) 家族の機能 (3) 家族の役割 2) 家族に関する基礎理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム理論 (3) 家族ストレス対処理論		
4		2. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族の介護力のアセスメントと調整 2) 家族関係の調整 3) ケア方法の指導 4) 家族介護者の健康 5) レスパイトケア		
5	看護過程展開演習	事例を用いた看護過程の展開 1. 事例展開 (健康の社会的決定要因の影響を踏まえたアセスメント) ※あらゆる発達段階・様々な状況にある対象の複数の事例を展開 ※計画した援助はシミュレーション演習を行う 1) 情報の収集・整理とアセスメント 2) 療養上の課題の抽出 3) 目標設定と援助計画立案 4) 看護援助の実施 5) 実施した援助の評価と看護目標や援助計画の修正・再立案		
6				
7				
8 ※1H		終講試験		

【講義に向けての課題・特記事項】

既習の知識を活用しながら、事例を用いて在宅での看護過程を展開します。授業内容に関連することは予習をして授業に臨んでください。

【テキスト】

メ) 新体系看護学全書 地域・在宅看護論

【参考図書・文献】

医)「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践」 学)「よくわかる在宅看護」
メ)ナース・グラフィカ「地域療養を支えるケア」「在宅療養を支える技術」 日看護)「家族看護学を基盤とした 在宅看護論Ⅱ 実践編」

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】			
最善の生を支える看護の 実際	3年前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	石川 奈名	ベルランド総合病院	看護師			
		柳 和也	府中病院	看護師			
		近藤 幸代	泉大津急性期メディカルセンター	看護師			
		藤本 和美	ベルランド総合病院	看護師			
		金子 裕子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員			
		新林 文子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員			
		【実務経験】	看護師として急性期病院等での実務経験20年以上 有 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。				
【概要】 少子高齢化の進行により高齢多死社会が到来している現状にある。あらゆるライフサイクルにある対象があらゆる場で、健康の社会的決定要因が対象に与える影響を踏まえ、対象と家族の「その人の最善」を生きるための看護の実際を学ぶ。							
【到達目標】 1. 人生の最期の時を迎える対象と家族を理解する。（知識・技能） 2. 人生の最期の時を迎える対象と家族を支える看護を理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 人生の最期の時に向かう対象の意思決定を支える看護について理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現） 4. 人生最後の時に向かう対象と家族を支えるチーム医療の重要性を理解する。（知識・技能） 5. 人生の最期の時にある対象と家族に関心を寄せ、看護を探究する姿勢を養う。（学びに向かう力）							
【授業計画・内容】							
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)		
1	人生の最期の時を迎える 人の特徴 講義	1) 身体的な特徴	1. 最善の生を生きる対象の身体的苦痛と看護 1) 身体的特徴(変化)について 食欲不振・悪心・嘔吐・腹水・下痢・便秘(イレウス) 呼吸困難・咳嗽・喘鳴・浮腫・意識障害・乏尿・無尿	石川 40%	①筆記試験 ②課題提出物 ③授業への参加態度を統合して評価する。 100%		
2		2) 精神的な特徴	2. 最善の生を生きる対象の精神的苦痛と看護 1) 精神症状・精神状態と対応と特徴について 不安・抑うつ・希死念慮・不眠・せん妄・否認・退行・怒り 2) 身体的苦痛のマネジメントの考え方				
3		3) 社会的な特徴	3. 最善の生を生きる対象の特徴と社会的苦痛(不安)と看護 1) 住み慣れた地域で多い暮らしの支援 ・疾患・障害を持つ療養者の暮らしの支援 ・在宅療養への移行支援				
4		4) スピリチュアルの特徴	4. 最善の生を生きる対象のスピリチュアルの特徴と看護 1) 病の経験と苦悩 2) 全人的苦痛とスピリチュアルケアの必要性 3) スピリチュアルについての考え方				
5		5) 人生の最期を迎える 対象と家族の特徴	5. 最善の生を生きることを支える対象と家族への看護 1) 家族の特徴 2) 家族のアセスメント 3) 家族像の形成(家族像に基づいた家族への看護介入) 4) 家族へのケアの実際(看護師の役割とチームアプローチ) 5) 遺族ケア(グリーフケア)				
6 ※1H							
7	ライフサイクルを迎える おける人の特徴 人生の最後	1) 人生の最期に向かう こどもの看護	1. 最善の生を生きる子どもに必要な看護の実際 1) 人生の最期に向かう子どもの特徴 ・身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴 ・家族の特徴 2) 人生の最後に向かう子どもの看護	金子 5%			
8	施設での 看取りの	2) 人生の最期に向かう 成人の看護 (腎不全)	1. 最善の生を生きる対象に必要な看護の実際 1) 腎不全と共に生きる対象への看護 ・全人的苦痛と生活への影響(身体的な苦痛が生活に与える影響) ・看護の実際	柳 15%			
9		3) 人生の最期に向かう 高齢者の看護 (心不全)	1. 最善の生を生きる対象に必要な看護の実際 1) 心不全と共に生きる対象への看護 ・全人的苦痛と生活への影響(身体的な苦痛が生活に与える影響) ・看護の実際	近藤 15%			
10	緩和ケア						
11	3) 高齢者施設における 看取り	1. 最善の生を生きる対象に必要な看護(看取り)の実際 1) 高齢者施設における看護(看取り)の実際 ・施設間連携の実際 ・家族ケア(グリーフケア)の実際	新林 10%				
12							
13	緩和ケア	1) 緩和ケアにおける 看護の役割	1. 最善の生を生きる対象に必要な看護の実際 1) 緩和ケアとは 2) 緩和ケアにおけるコミュニケーション 3) 緩和ケアにおける倫理的課題 4) 臨死期のケア 5) 医療スタッフのケア	藤本 15%			
14							
15	※1H	終講試験					
16							
【講義に向けての課題・特記事項】 課題は講義に参加するためには必須です。専門用語を正確に理解しましょう							
【テキスト】 医)系看「緩和ケア」 医)系看「老年看護」 医)系看「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医)系看「腎・泌尿器」「循環器」 【参考図書・文献】 医)系看「成人看護学総論」							

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
最善の生を支える看護の演習	3年前期	津崎 勝代	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
	【単位 時間数】 1単位 15時間	【実務経験】 有	看護師としての実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】 少子高齢化の進行により高齢多死社会が到来している我が国において、人々がどのような社会的環境のもとで人生の最期を迎えるかは、健康の社会的決定要因に大きく影響されている。社会的要因が、対象の生活や意思決定、援助の受け方にどのように関わるかを学び、看護の視点から、対象と家族の「その人らしい最善の生」を支える看護実践を考察し、多職種や地域社会との連携を含めた包括的な支援を学ぶ。				
【到達目標】 1. 人生の最期の時に向かう対象と家族について理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現） 2. 健康の社会的決定要因を踏まえて、対象および家族に必要な看護を多角的に理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 人生の最期の時に向かう対象と家族に関心を持ち、主体的に学習する姿勢を養う。（学びに向かう力）				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)
1	最善の生を生きる人への看護過程の展開 講義 演習	最善の生を支える看護の対象とは	授業内容 1. 人生の最期の時に向かう対象と家族に必要な看護について考える	津崎 100%
2		対象の状態把握(事例紹介)	1. 対象の全体像把握 (対象理解・看護上の問題の明確化) 1) 対象の状態の把握 2) 健康の社会的決定要因を踏まえたありたい姿の評価する 2. 看護過程の展開 1) 健康の社会的決定要因を踏まえた問題抽出	
3		対象の全体像把握	1. 対象の状態把握 看護上の問題および統合 2. 対象のその人らしい生活を支える支援 生活のしづらさがある状態からどのように支援するのか	
4		事例の対象について最善の生を支える看護を考える (看護計画立案)	1. 最善の生を支えるための看護目標 2. 社会的支援の活用	
5		事例の対象について最善の生を支える看護を考える (看護の実践)	1. 看護の実践 計画に基づいた看護の実践① ・ トータルペインの緩和に向けた看護の実践 ・ スピリチュアルペインに対する看護の実践	
6		事例の対象について最善の生を支える看護について考える 実施・評価	1. 健康の社会的決定要因に基づく計画の評価/計画の追加・修正	
7		事例の対象について最善の生を支える看護を考える (看護の実践) まとめ	2. 看護の実践 計画に基づいた看護の実践② 「対象・家族の全人的苦痛および意向を尊重した看護実践」 家族看護 ・ グリーフケア 多職種連携 看護に取り向かう対象の看護 まとめ	
8 ※1H		終講課題		
【講義に向けての課題・特記事項】 ・ 最善の生を支える看護の基本の復習をしましょう。 ・ 自身の考えを言語化する力を磨いていきましょう。				
【テキスト】 医) 系書「緩和ケア」 医) 系書「がん看護」 【参考図書・文献】 医) 系書「呼吸器」 医) 系書「成人看護学総論」				

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
キャリア支援3 (BLS演習)	3年次 前期	津崎 勝代	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
	【単位 時間数】	西山 明秀	泉大津急性期メディカルセンター	医師
	1単位 15時間	【実務経験】	医師として臨床経験20年以上	
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。	
【概要】				
成人、乳児、小児の一次救命処置、気道異物の除去、AEDの使用を学ぶ。				
【到達目標】				
1. BLSの基礎知識を主体的に学ぶことができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)				
2. BLSプロバイダーコースを受講し、資格を取得することが出来る。(知識・技能) (学びに向かう力)				
3. BLSプロバイダーコース取得後の自己の課題や展望について明確にできる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)				
【授業計画・内容】				
回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)
1 * 1H	講義	履修オリエンテーション①		日本 ACLS協会 100%
2	講義	e-ラーニング		
3	演習 講義	グループ別履修前学習 確認小テスト①		
4	演習 講義	グループ別履修前学習 確認小テスト②		
5	演習 講義	グループ別履修前学習 確認小テスト③		
6	演習 講義	グループ別履修前学習 BLSプロバイダーコース 受講オリエンテーション		
7	講義 試験	日本ACLS協会 BLSプロバイダーコース研修		
8				
【講義に向けての課題・特記事項】				
評価割合 BLSプロバイダーコースを受講し、合格認定証を取得する。 学内の確認小テストは直接単位修得に必要な評価には含まないが、確実に 知識を身につけて研修に臨むために重要であるということを理解しておく こと。 必要物品：トレーニング用ポケットマスク(成人)				
【テキスト】 BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン(電子版 改訂のため後日購入予定)				
【参考図書・文献】				

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
医療安全 1	3 年次 前期	楠本 茂雅	社会医療法人 生長会	薬剤師	
	【単位 時間数】	竹谷 弘江	ベルビアノ病院	看護師	
	1 単位 30時間	宮崎 絵美	府中病院	看護師	
		【実務経験】	薬剤師、看護師として急性期病院での実務経験20年以上		
		有	※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】					
社会が求める医療安全に関する最新の知識・技術を学び、看護職として安全な看護を提供するための実践能力を養う。 又、KYT事例演習を通して多重課題を個人で実践し、振り返り意味づけをしながら医療安全のリスクセンスを学ぶ。					
【到達目標】					
1. 医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）					
2. 医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する。（知識・技能）					
3. 医療事故事例を分析し、対策を検討することができる。（学びに向かう力）（思考・判断・表現）					
【授業計画・内容】					
回数	講義形態	主な内容		担当講師 評価割合	評価方法
1	医療安全の基・医療事故	医療安全・医療事故の基礎	1. 医療安全について 2. 医療事故と医療過誤 3. 医療行為と看護行為に関連した事故（看護事故） 4. 危険要因 1) 医療側要因 2) 状況要因 3) 患者側要因	楠本	筆記試験100% 演習レポート課題の総合評価
2	感染管理		1. 感染予防 2. 感染制御 3. 感染対策チーム（IGT） 4. アウトブレイク 5. 職業感染	宮崎 15% 竹谷 15%	
3					
4					
5					
6	看護事故発生の原理	看護事故発生の原理	1. 看護事故の構造（2種5詳） 2. 看護事故防止の考え方 1) 間違いによる事故を防ぐ 2) 危険予測に基づく事故防止 3. 危険予知トレーニング（GW・演習）		
7					
8					
9					
10	要因と予防策	医療安全とコミュニケーション	1. 分析した結果から考える要因と予防策について、GW発表	楠本 70%	
11		感染管理システム			
12					
13	看護業務に 関する危険 要因分析	危険要因分析と予防策：演習・発表 （医療事故の背景因子、事故発生のメカニズムと防止対策）	1. 患者間違いと発生要因 2. タイムプレッシャー 3. 思い込みと行動パターン 4. 薬剤、放射線暴露の対応		
14	医療安全と コミュニケーション		1. 医療安全とコミュニケーション 1) 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2) 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3) 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション		
15 ※1H	国や組織の 安全対策	国や組織の安全対策 医療安全管理体制の概要 ヒヤリハット報告・分析・対策	1. 組織としての医療安全対策 1) 組織的な医療安全管理の考え方 2) 安全文化の醸成 3) 医療安全管理体制の概要 ・安全管理指針の策定 ・ヒヤリ・ハット報告によるリスクの把握・分析・対策 2. システムと事故防止 3. 国の医療安全対策		
16 ※1H	終講試験				
【講義に向けての課題・特記事項】					
【テキスト】 医)系書「医療安全」					
【参考図書・文献】 南江堂)「医療安全」 医)系書「基礎看護技術Ⅱ」 医)「ヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術」					

【科目】510241		【時期】 4 年次 後期	【担当講師】 楠本 茂雅 遠藤 由子	【所属】 社会医療法人 生長会 ベルランド看護福祉大学校	【職種】 薬剤師 専任教員	
医療安全 2		【単位 時間数】 1 単位 20 時間	【実務経験】 有	薬剤師として急性期病院での実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 社会が求める医療安全に関する最新の知識・技術を基に、チームでの多重課題を経験し安全な看護を提供するための実践能力を養う。又、多重課題をチームで実践し、状況に応じた臨床判断を用いた看護実践について客観的臨床評価に基づいて学ぶ。						
【到達目標】 1. 医療チームの一員としての安全行動が理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現） 2. 医療の場における状況や環境のなかで、既習学習を関連させて、安全確保のための危険回避感性を身に付ける。（学びに向かう力）（知識・技能）（思考・判断・表現） 3. 積極的に参加しリフレクションすることでリスク感性を身に付ける。（学びに向かう力）（思考・判断・表現）						
【授業計画・内容】						
回数		授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1	看護場面に潜む危険要因	講義	看護場面に潜む危険要因 ・危険予知トレーニング ・ノンテクニカルスキル ・チームSTEPPSとは 1. 危険予知トレーニング * 報告内容を活用しグループワーク * 2. ノンテクニカルスキルとは 3. チームSTEPPS 1) チームSTEPPSの4つのコンピテンシー ・リーダーシップ ・状況モニタ ・相互支援 ・コミュニケーション 2) コミュニケーションスキル ・SBAR ・コールアウト ・チェックバック ・ハンドオフ		楠本 30%	筆記試験 100%
2						
3	講義・GW・演習	講義	医療におけるチームワーク・コミュニケーションスキルの実際（講義、GW） 1. コミュニケーションスキルの実際 1) 書籍・事例を用いて、医療事故発生の要因を考察 ①発生しうるアクシデント ②アクシデント回避のための対応 ③アクシデント発生時の対応などについて思考させ、危険回避感性やリスク感性を身に付ける。 ④ハインリッヒの法則の振り返り 2) ヒューマンエラーの体験 「紙を折るちぎる」TeamSTEPPSメンタルモデルの共有 3) ヒューマンエラー発生の要因と対策の考察 ①エラーの種類（スリップ、ミス、ミス、ミス） ②ヒューマンエラーのタイプ ③ヒューマンエラーを引き起こす条件 ④薬剤投与の計算		遠藤 70%	演習を通してのレポート・発表の総合評価
4						
5						
6						
7		演習	演習	事例検討		
8		講義	演習振り返り 演習事例に応じてGW内でインシデント報告書を作成し内容を確認			
9						
10 ※1H		患者安全の考え方の一因		医療事故発生時の現場保全対応、医療メディエーター、医療ピアサポート活動の紹介		
11 ※1H	終講試験					
【講義に向けての課題・特記事項】						
【テキスト】 医系看護「医療安全」 【参考図書・文献】						

【科目】	研究3	【時期】	4年次 前期・後期	【担当講師】	畠山 知子	【所属】	ベルランド看護福祉大学校	【職種】	専任教員
		【単位 時間数】	1単位30時間	【実務経験】	有	助産師として急性期病院での実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。			

【概要】

基礎的な看護研究の方法を理解し、ヘルスプロモーションの視点で捉えた対象を振り返り、自らのリサーチクエスチョンを見出すことができる。看護研究計画書を作成することで研究のプロセスを理解し、将来の研究活動のための基盤となる能力を身につける。研究計画に基づき、データの収集と分析を行うことができる。得られた結果について考察し研究成果をまとめることができる。

【到達目標】

1. 興味のある看護分野に関連した研究論文から明らかになっていることと明らかになっていないことを把握することができる
2. 先行研究の内容を踏まえ、独自の研究テーマを見つけることができる
3. 研究計画を立案することができる
4. 立案した研究計画書に沿って研究を実施し、一連の研究プロセスを経験することができる
5. 研究成果を論文形式にまとめることができる
6. 研究成果を発表することができる
7. 課題について主体的に計画的に取り組むことができる

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	看護研究とは	事例研究とは・事例の選択・研究の問い・講義	畠山 100%	成果物、発表、講義参加姿勢など総合的に評価する
2		事例の選択・研究の問い・文献検討・研究計画・講義・演習		
3		事例の選択・研究の問い・文献検討・研究計画・講義・演習		
4		事例の選択・分析・結果・研究計画・講義・演習		
5	研究の実際	研究の実際1: 演習		
6		研究の実際2: 演習		
8		研究の実際3: 演習		
9		研究の実際4: 演習		
10		研究の実際5: 演習		
12		研究の実際6: 演習		
11		研究の実際7: 演習		
12		研究の実際8: 演習		
13	研究発表	研究発表		
14				
15				

【講義に向けての課題・特記事項】

【評価割合・評価方法】

- (1) 到達目標の達成度について評価を行います。
- (2) 卒業論文60%、授業参加態度・研究の取り組み状況40%
- (3) 単位修得のための最低基準
 - ・60点以上を合格とする。
 - ・授業に参加し、研究に主体的に取り組むことができる。
 - ・期限までに研究論文を作成し提出することができる。

【テキスト】

医) 別巻 看護研究

【参考図書・文献】

授業内で適時紹介する

【科目】	看護マネジメント	【時期】	3 年次 後期	【担当講師】	河原田 益代 松永 真実 山下 有紀	【所属】	泉大津急性期メディカルセンター 阪南市民病院 泉大津急性期メディカルセンター	【職種】	看護師 看護師 看護師
		【単位 時間数】	1 単位 15時間	【実務経験】	有		看護師として急性期病院での実務経験20年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 組織における看護の役割を理解し、チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップおよびチームで働くために必要な知識を養う。看護管理は管理者だけが行うものではなく、すべての看護職者が看護を提供するために行うものであるため、看護マネジメントの基本的な概念を学び、看護管理過程に必要な知識を理解する。									
【到達目標】 1. 組織とリーダーシップについて理解することができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力) 2. 看護管理やマネジメントに関する基礎概念がわかる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力) 3. 看護におけるマネジメントが理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)									
【授業計画・内容】									
回数		授業形態		主な内容			担当講師 (評価割合)		評価方法
1	看護管理の基礎	講義	1.看護サービス管理の基礎：看護におけるマネジメントとは	1.看護サービスの管理 2.マネジメントの役割と機能、マネジャー・リーダー 3.看護組織と管理 組織論、看護提供方式、リーダーシップとメンバーシップ 4.意思決定 5.連携と協働ー多職種連携、チーム医療			河原田 30%	筆記試験 100%	
2									
3	2.看護管理の要素と実際		1.人的資源管理 ヒューマンサービス、キャリアマネジメント、WLB 2.情報の管理 3.管理行動と自己管理 コミュニケーション、アサーション、交渉、葛藤、ストレス管理、時間管理 4.アウトカムマネジメント 看護の質、安全管理、職場環境 ウェルビーイング（顧客満足、職務満足）			松永 30%			
4									
5	3.医療連携とチーム医療における看護の役割		1.医療連携-施設間連携・地域医療連携 2.他職種との連携、チーム医療・専門職連携			山下 40%			
6									
7									
8 ※1時間	終講試験								
【講義に向けての課題・特記事項】									
【テキスト】 南)「看護管理学」 【参考図書・文献】 日看護協)「看護職者のための政策過程入門」									

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
看護マネジメントと 看護政策	4 年次 前期	弘川 摩子	公益社団法人 大阪府看護協会	看護師
	【単位 時間数】 1 単位 15 時間	野口 富美子	ベルランド総合病院	看護師
		中口 清美	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験30年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	

【概要】

看護の実践と政策がどのように関係しているのかを様々な制度や施策を通して理解する。
看護専門職者として社会的決定要因が個人の健康に及ぼす影響から、施策を提言することの重要性を考える。
看護専門職に就くにあたり、社会が期待する看護職としての自分自身の在り方と責務について考え、自覚できることをめざす。

【到達目標】

1. 看護職能団体の目的と理念、事業内容について理解することができる（思考・判断・表現）
2. 看護専門職をとりまく社会情勢や国の施策について理解し、現代の日本が抱える課題について考えることができる。
（学びに向かう力）（思考・判断・表現）
3. これからの時代の看護管理について考えることができる。（学びに向かう力）（思考・判断・表現）
4. 将来を見据えた看護政策への提言および看護ビジョンを考えることができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	授業形態	主な内容		担当講師 (評価割合)	評価方法
1	講義	1. これからの時代の看護管理	1. これからの看護管理・展望 ワークの方法、テーマ選定	中口	授業参加状況 GW内容 プレゼン 個人レポート
2		2. 看護職能団体の機能と役割	1. 看護職能団体の理解 大阪府看護協会設立の背景と経緯、役割について 大阪府政策と看護 看護の将来ビジョン	弘川 野口 (20%)	
3		3. 看護学生から看護職へ	1. 社会が期待する看護職：責務と自覚 専門職倫理		
4		グループ ワーク	4. これからの時代に求められる看護とは	看護政策への提言・看護の将来ビジョンを考える (健康の社会的決定要因を含む) グループワーク	
5					
6					
7					
8 ※1時間			プレゼンテーション 個人で将来ビジョンを考える (個人レポート) (15回目を45分とする)		

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

南)「看護管理学」

【参考図書・文献】

日看協)「看護職者のための政策過程入門」

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】
臨床看護の実践2	3年次 前期 【時間数】 1単位20時間	西岡 万智子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験10年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。	

【概要】
看護師が患者の身体状況を的確に把握するために、臨床推論を行い、緊急度や重症度を判断し、患者の状態にあった的確な看護を提供できる力を養う。この過程で、臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を身につける。

- 【到達目標】
1. 臨床判断と臨床推論の理解と、その関係性を理解できる。（知識・技術）（思考・判断・表現）
 2. 臨床現場で遭遇しやすい症状を通して、「臨床推論」「臨床判断」をもとに予期できる。（知識・技術）（思考・判断・表現）（学びに向かう力）
 3. 臨床現場で遭遇しやすい事例展開を通して、「臨床推論」をもとに的確な看護が実践できる。（知識・技術）（思考・判断・表現）（学びに向かう力）
 4. 看護専門職として看護倫理に基づいた倫理的態度を身に着けることができる。（知識）（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法 (割合)
1	臨床推論について学ぶ	1. 看護実践能力とは 2. 看護倫理に基づいた倫理的看護とは	西岡 100%	課題提出物 50% (個人) + 30% (GW) 20% (OSCE)
2		3. 臨床判断と臨床推論 1) 臨床判断の構成概念 2) 臨床推論とは 3) 臨床判断を臨床推論の関連		
3		4. 臨床推論の実際 1) 臨床推論の方法 臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際① 「急性腹症」の臨床推論		
4	協同学習	5. 臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際② 1) 「呼吸困難」「浮腫」の臨床推論 演習方法：ペーパーシミュレーション		
5				
6	臨床推論看護・臨床判断を実践するをもとに	6. シナリオシミュレーション演習① 事例：「胸痛」「動悸」 演習内容： 1) シナリオ作り 2) シナリオ練習と修正 OSCE計画書発表 3) OSCE対策		
7				
8				
9		5. シナリオシミュレーション演習② 3) 状況を判断し必要な看護を実践する ・臨床推論をもとにヘルスコミュニケーションの実施 ・緊急度、重症度の判断をもとに報告・連絡・相談の実施 ・予期をもとに療養上の世話と診療の補助の看護実践		
10		4) ピア評価 6. リフレクション		

【講義に向けての課題・特記事項】

1、2年次に学習した「フィジカルアセスメント」「ヘルスアセスメント」「症状マネジメントと看護」「診療の補助」「看護過程の展開」の知識を基本に、「臨床判断」「臨床推論」するための思考・判断・表現を学ぶ科目です。学んだことを活かせるように、記載している既習科目の内容理解と自己の課題を明らかにし、講義に参加してください。

【テキスト】

講師使用資料

【参考図書・文献】

各自で準備

【科目】	【時期】	【担当講師】	【所属】	【職種】	
臨床看護の実践3	4年次 前・後期	岸田 由紀	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
	【単位 時間数】 1単位 30時間	西岡 万智子	ベルランド看護福祉大学校	専任教員	
		【実務経験】 有	看護師として急性期病院での実務経験10年以上 ※上記の実務経験をもとに教育を行う。		
【概要】 これまで学んだ知識や技術を活用し科学的根拠に基づいた看護実践を土台にして、状況判断や多重課題・緊急時などに対応できる実践的かつ倫理的な対応力を身につける。					
【到達目標】 1. 看護業務遂行のためのマネジメントの真の本質について理解できる。（思考・判断・表現） 2. チームの一員として、看護の業務遂行のためのマネジメントについて理解できる。（思考・判断・表現） 3. 出来事の緊急性や重要度を見極めながら、優先順位を判断できる基礎的能力を養う。（知識・技能）（思考・判断・表現） 4. チーム制での複数受け持ちによるタイムマネジメントを行い、対象個々の状況に応じた判断と看護実践の能力を身につけることができる。（学びに向かう力）（知識・技能）（思考・判断・表現） 5. 看護専門職として看護倫理に基づいた倫理的態度を身につけることができる。（知識・技能）（思考・判断・表現）					
【授業計画・内容】					
回数	授業形態	主な内容	担当講師 (評価割合)	評価方法	
1	医療チームとして考える看護実践	医療チームの一員としての看護の役割 I. 医療チームの一員としての看護の役割 1. 患者をめぐる医療チームの構造 ①病院組織 ②施設における医療チーム ③看護システムの実態 II. 看護師のチームワークとコミュニケーション 1. 組織員の基本としての指示と報告 ①看護部組織の特徴と活動 ②各部署での看護業務 ③管理上の報告について 2. 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ ①看護提供体制（看護方式） ②看護チームでの情報伝達と共有 III. 多職種とのチームワークとコミュニケーション	岸田 70%	筆記試験	
2					
3		複数患者間のケア優先順位と時間配分 多重課題の危険性			
4					
5	チームで多重課題への対処について考える	I. 演習（シナリオ作成） 1. ホーブタウン対象2名の看護実践での多重課題への対処について考える ①多重課題への対応 ②予期しない対象の反応 ③突発的な事態 ④時間の切迫 ⑤倫理に基づいた看護実践 2. 個人ワーク 3. グループ演習			
6					
7		多重課題と看護実践			
8					
9	複数課題と看護実践	演習振り返り 自己の課題の明確化			I. 演習の振り返り 1. 看護実践についての振り返り、安心で安全な看護を再構成する 2. 看護者としての自己対応能力、対象および医療者の視点から管理的側面について考察する ①患者中心の看護の提供 ②病院組織としてのチーム管理 ③チームナースの基盤となるスタッフ間の関係構築 ④多重課題に対応する実践的思考 ⑤多職種チームによる情報交換
10					
11 ※1時間		OSCEオリエンテーション I. OSCEオリエンテーション 1. ホーブタウン対象4名の看護実践を5人1チーム制で実施 2. 事例の提示 3. 評価の基準について			
12	OSCE	課題演習	I. 演習		
13					
14		I. 技術試験 1. 全体評価 2. まとめ			
15					
16 ※1時間	総講義試験		西岡 30%	技術試験課題提出	
【講義に向けての課題・特記事項】					
【テキスト】 南)「看護管理学」「看護倫理」					
【参考図書・文献】 西)「看護倫理 見ているものが違うから起こること」 メ)「看護実践マネジメント/医療安全」 照林社)「よくわかる看護者の倫理綱領」					